

鶴見川水系河川整備計画（原案）及び鶴見川流域水害対策計画（原案）に係る住民説明会 質疑要旨

場所：港北公会堂ホール

日時：平成 18 年 9 月 19 日 19:00～21:00

参加者質問・意見内容	事務局回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・流域水害対策計画の P 3 0 の「住民等による対策の促進に関する事項」があるが、鶴見川の流域に住んでいる者に何ができるかというのが直感である。私の解釈としては、たとえば、一人一人がバケツ一杯の水をためれば流域全体では相当の効果になると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変貴重な意見として承りたい。</li> <li>・かつては大雨の時はお風呂の水を抜かない、洗濯をしないなどの啓発活動をしてきたこともあるので、今後も努力していきたい。(京浜)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的遊水地の完成後、これまでに数回水が遊水地に入っている。遊水地の能力は 390 万<math>m^3</math>とされているが、P C B 汚染の関係で貯留機能が低くなっているはずだが、実際の値はどのくらいか。</li> <li>・P C B 汚染土壌の撤去はいつぐらいに終わるのか。</li> <li>・最初の想定よりかなり少ない雨量で水が流れ込んでおり、目標の数値が甘いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊水地全体では 390 万<math>m^3</math>であるが、P C B 汚染対策の関係で約 20 万<math>m^3</math>ほど遊水機能が減っているので、現在遊水地の遊水機能は 370 万<math>m^3</math>である。これまでに 4 回遊水地に水が入っており、そのうち平成 16 年 22 号台風で最も水が入り、貯留量が 150 万<math>m^3</math>であった。したがって、約 4 割の水が入った事になる。(京浜)</li> <li>・P C B 汚染土壌の処理については、平成 22 年までに高濃度地域の対策を終え、その他の地域も逐次処理を進めていく予定である。(京浜)</li> <li>・目標が甘いのではないかというご指摘については、遊水地は地盤が 2.5m と 4m の 2 段構造となっており、当初より低い方の 2.5m については 1～2 年に 1 回程度は水が入る計画であるため、さほど想定とは異なっていないと考えている。(京浜)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、伊勢湾台風の降雨への対応が目標とされていたが、狩野川台風の降雨が目標に変更されているのはなぜか。</li> <li>・遊水地を公園や駐車場などに利用しているが、増水時にはそこに水が流れ込むという事を知らせる看板などが無い。そうした事を報せる広報活動への取り組みはどうなっているのか。</li> <li>・遊水地の地盤が 2 段になっているのを 1 段にすれば、容量をもっと増やせるのではないのではないか。</li> <li>・国土交通省の資料で水害の危険について調査されており、水害の危険があるという資料が公開されている。あたかももう大丈夫であるという印象を与えて欲しくない。</li> <li>・放水路の整備の前に、遊水地の機能を 100%にする必要があるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標については当初から狩野川台風の降雨としている。伊勢湾台風での雨量が 2 日で 100mm であるのに対し、狩野川台風での雨量は 340mm である。(京浜)</li> <li>・広報についてはパンフレット等で遊水地の仕組みをお知らせしているが、より広く報せるように引き続き努力していく(京浜)。</li> <li>・容量については、今の容量で足りると計画している。(京浜)</li> <li>・河川整備計画は長期計画の一部であるが、いきなり水害を無くすような整備はできないので、一步一步進めていくしかない。その第一段階としての河川整備計画であり、治水の安全を確保していく目標として、狩野川台風の雨量を設定している。遊水地も将来的には例えば越流堤の改造などがあるかもしれないし、放水路も長期計画である基本方針には位置づけられている。(京浜)</li> </ul>

参加者質問・意見内容	事務局回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ排水地区では、内水をポンプで排出することになるが、集中豪雨が起ったときには排出しきれない事があり得る。河川が氾濫する場合の警戒システムや情報提供の仕組みはあるが、内水については避難警報、避難勧告などを出す広報システムや、情報提供の仕組みは無い。これら警報や勧告などの情報は、どういう形で出てくるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・局所的な大雨に対する情報は把握しにくい面があり、排水施設の能力を超えてしまって、湛水してしまうという現象がある。水防災の情報は非常に大事で、横浜市ではホームページに水位情報、降雨情報を入手できるような情報システムを構築したいと考えている（流域水害対策計画の p29 にも記載）。防災に関する情報提供については関係機関とともに検討していく。（横浜市）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ排水地域とは河床より低い地域という事か、それともいわゆるゼロメートル地帯という事か、どちらか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害対策計画 P 2 2 に示している地域だが、計画高水位より地盤が低い地域を設定している。（横浜市）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゾーニングについて、半自然地ゾーンというのがわかりにくい。</li> <li>・遊水地のゾーニングはどうなっているか。</li> <li>・大綱橋周辺に鉄道が通ると聞いている。まだ、どこを通るのか確定していないなら対応しようがないのかもしれないが、ゾーニングには反映させているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広場利用ゾーンは野球場など、積極的に利用を進めていくゾーン、自然保全・回復ゾーンというのはそこにある自然を積極的に保全・回復していくというゾーン、半自然地ゾーンは両者の間にあるゾーンで、積極的に自然保全をするわけではないが、利用も進めないゾーンである。（京浜）</li> <li>・河川整備計画（原案）の附図 V ページに示しているが、遊水地のグラウンドで利用されている所は広場利用ゾーンであり、沿川は自然保全・回復ゾーンとなっている。（京浜）</li> <li>・鉄道の新線については、今回示しているゾーニングには特に反映させていない。（京浜）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングについて、維持管理など市民が関わる部分について、全体でうまくいっているかどうかチェックする窓口、市民の意見を吸い上げるしくみを区役所に作る事を検討できないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングの仕組みについて、河川整備計画（原案） P 8 5 に記述している。その中にもあるように、ホームページでモニタリングの結果を公開していくことを考えている。（京浜）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時における新横浜公園からの避難について、横浜市はしっかりとした計画、管理を行っているのか。急に水位が上がったときなど、避難が間に合わない事もあるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水が越流堤を超えてからの避難では間に合わないので、入る前から避難態勢をとっている。（京浜）</li> <li>・いかにスムーズに利用者に情報を伝達するかが課題であり、具体的には公園整備中なので、皆様のご意見を踏まえ対応していきたい。（横浜市）</li> <li>・多目的遊水地については、大雨洪水情報等が出たときは、情報を流すようにしている。実際には越流堤を超えないことも多いが、安全確保の為にしている。今後、いただいたご意見に従って、より連携を進め、避難の方法などについても検討していく。（京浜）</li> </ul>